

日本語補習校 三育学院サンタクララ校

補習校で、グローバル人材の養成

校長 吉田 栄一

◆ 本校の紹介

三育学院サンタクララ校は、1982年に地域の日系コミュニティのニーズに呼応する形で設立された私立の日本語補習授業校です。開校当初は教員1名、児童4名。運営の母体でもあるマウンテンビュー SDA 日本人教会の一室を借りて寺子屋のようにスタートを切りました。

1980年代初頭は、ちょうどサンフランシスコベイエリアの南側、サンタクララバレーがシリコンバレーとして発展し始めようとする時期でしたが、まだまだ日系企業の本格的な進出は少なく、サンノゼ地区に赴任した駐在員のお子さん達は、バスで1時間かけて毎週土曜日にサンフランシスコの補習授業校まで通っていたそうです。そんな折「サウスベイにも日本語を学べる学校を」という地域の皆さんのニーズに応える形で開校して以来28年、多くの皆様のご支援を受けて本日を迎えました。

現在、本校では3歳児から中学校3年生までの園児・児童・生徒約400名が日本語で学んでいます。本校の特色は、キリスト教教育観に基づいた三育教育（「知育」「徳育」「体育」のバランスの取れた全人的教育）を行うこと、そして、補習授業校としてはめずらしく、週末ではなく週日に授業を行うことです。また、教職員はフルタイム勤務、校舎や教育環境にもこだわりを持ち、現地の学校施設をこれまたフルタイムで借りて、保育授業を行っています。日本に将来帰国する皆さんを

主な対象とした本科、そして主に永住の皆さんを対象とした日本語専科があり、日本語を学ぶ目的に合わせたプログラムを選択できることも特徴の一つです。

◆ 世界の中の日本の立場

3月11日の東日本大震災とそれに伴う津波の甚大な被害、福島原子力発電所の放射性物質漏洩問題、さらには輸出大国日本の経済を締めつける円高、日本から遠く離れたアメリカにいても重く暗いニュースばかりが飛び込んできます。そんな中で救いなのは、海外からの支援や援助、世界中が日本の被災地にたいして心を痛め、心を遣ってくれている姿です。また、悲惨な状況下でも人としての優しさや思いやり、そして誇りを決して忘れない日本人の姿も各国で大きな話題となり反響を呼びました。今後日本はここからどのような歩みをしていくのでしょうか。「日本の若者は海外、世界に目を向けなくなった」と言われていますが、そんな中、このたびの震災で世界の目は確実に日本という国に向けられました。それによって、日本という国そのもののあり方はもちろん、色々な意味で日本の国際社会の中での位置づけ、立場や関わり方が問われ、再確認される機会になっているような気がします。

◆ グローバル人材とは

さて最近グローバル人材育成という言葉をよく耳にするようになりましたが、このグローバル人材とはどんな人のことなのでしょうか。日本はグローバルビジネスパーソンが育ちにくいといわれてきましたが、これは諸外国に比べると言語においても文化においても多様性の少ない日本という国の宿命と言えるかもしれません。しかし、世界のボーダレス化は益々加速傾向にあり、外国の言葉を操ること、互いの違いを認めること、違いを伝え理解を得ること、合意点を見出し次に進めることは、今やごく普通のコミュニケーションプロセスです。海外で日本語教育を行う補習校の立場から、グローバル人材として明日の日本を背負って立つ人材育成の可能性について少し考えてみたいと思います。

文部科学省・経済産業省「産学人材育成パートナーシップ グローバル人材育成委員会報告書」では、グローバル人材に



三育学院で学ぶ子どもたち（他の写真も）